

諏訪小だより

令和 7年 4月 7日
4月号
多摩市立諏訪小学校
校長 斎藤 幸之介

啐啄同時—「好機」を逃さないために

校長 斎藤幸之介

暑さともいえるほどの気温の上昇を感じたと思いきや、厳しい寒さが戻ってくる、そんな変わり目となっています。しかし、確実な新しい季節の足音のように、新年度を迎えた子供たちは軽やかに登校してきました。

御子様の御入学・御進級誠におめでとうございます。新入生 45 名をお迎えし、全校 349 名で本日より令和 7 年度の教育活動を始めることができました。本年度も御理解と御協力の程お願い申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、ふとした間に昔のことを思い出しています。先日は、私が新規採用教員時に多大なる御指導を頂戴した校長先生の言葉を思い出していました。それは、「啐啄同時（そったくどうじ）」です。

「またとない好機」—そのための「啐」と「啄」

「啐啄同時」とは、「またとない好機」という意味ですが、これを鳥が卵から出ようとする様子を捉えた表現とも言えましょう。「啐」とは雛鳥が孵化するときにからの中から泣くこと、「啄」が外から殻をつつくこと、これが「同時である」ところにこの四字熟語の意味の深さがあります。

（以上参考 Goo 辞書）

親鳥と雛鳥の関係の素晴らしい深さを感じることもできます。これがあるから雛鳥が無事に卵からかえることができるわけです。「好機」ですからその一瞬を逃してはならない、という生命誕生の神秘すら感じます。そして、親子の関係の深さに改めて感動します。皆様はどのように捉えていらっしゃるでしょうか。

「学ぶ立場」と「教え導く立場」から

「啐啄同時」には、次のような意味も込められているそうです。「学ぼうとする者と教え導く者との息が合って、相通じること」。これはまさしく学校での教育活動に見られる子供たちと教師

の関係です。特に「相通じる」に着目すると、そこには「お互いが理解する」とあります。一方的な教え込みはもちろんだめ、また子供たちだけではうまくいかないこともあるかもしれません。お互いの思いや願いを理解する、また教師の立場からすれば、子供たちの状況を把握して適切な働きかけを試みる、このような関係があるからこそ教育活動が成立する、ということになります。

私共教職員は、改めて理想的な教育活動のあり方をここに確認することができます。

「好機を逃さない」ために

一方で、親も教師もこの「好機」を確実に捉えて適切な働きかけをすることは容易ではありません。ここには、子供たちを教育する様々な考え方方が大いに関係しているからでもあります。

最近、「ゴールデンエイジ」という言葉をよく聞くようになりました。一般的に 9 歳から 12 歳ころまでの、特に運動能力や技術の習得が飛躍的に向上する発達段階のことだそうです。新しい動きや技術を素早く習得する能力が高まり、また、記憶力、注意力、問題解決力を能力も向上するとされています（参考 SOL スポーツクリニック）。この他、基本的生活習慣、社会性、思考力、など、様々な資質・能力を伸ばしていくことになりますが、いずれにも「好機」と言われる段階がいつなのかを見極める大切さを改めて確認できます。

小学校生活は 6 年間であり、卒業していくときに 12 歳である子供たちは人生の半分を小学校で過ごしたことになりますが、一方で、中には「あつという間だった」と振り返る場合も少なくありません。だからこそ、「またとない好機」を逃さずにいたいと思います。そのために、皆様の協力を得ながら、学校という立場から教育を推進していきたいと思っています。

